

亀谷 純雄 教授 退職記念号によせて

2015年3月、経営学部の亀谷純雄教授が定年退職を迎えられました。法政大学経営学会では、長年にわたって法政大学の研究、教育等に貢献された亀谷先生を讃えて、『経営志林』の本号を退職記念号として刊行することとしました。

亀谷純雄先生は、横浜市立金沢高等学校をご卒業後、1965年法政大学法学部に入学され、1969年にご卒業されました。その年の4月に(株)C.M.C.に入社され、1970年4月からは(株)社会調査研究所にて勤務されました。1973年4月、法政大学第一教養部の助手として着任され、2000年に専任講師になりました。2001年には国際文化学部の兼任講師としても講義をご担当され、2002年に助教授になられた後も国際文化学部の兼任を続けられています。2003年に経営学部に移籍され、2005年4月に教授になりました。また、1978年4月から2015年3月までの37年間にわたり、通信教育部の指導講師としてもご尽力なさっております。

経営学部の科目としては演習をご担当され、市ヶ谷リベラルアーツでは心理学を長年にわたりご担当いただきました。心理学は、経営学部生のみならず、文学部、法学部生を対象とし、毎年2クラス開講で各クラス約300名の学生が受講していました。心の形成・発展に焦点を当てて、外界の反映にかかわる心理機能を取り上げ、また、感情、意志、動機等の内面的働きに注目して、行動とのかかわりを考察し、心理機能の総合としての人格とその発達について学ぶという内容でした。受講生から「性格診断等興味のわく授業を展開して下さった」、「海外や日本の心理学者の例をとって説明され、わかりやすかった」、「自分自身の考えや成長と比較、検討しながら受講することができた」等、講義が楽しく、面白いという声が寄せられています。

学会活動としては日本社会心理学会、日本応用心理学会、日本心理学会に所属され、東京保育問題研究会会長(1991年)、東京保育団体合同研究会実行委員長(1998年)、第41回全国保育問題研究集会実行委員長(2003年)等の社会活動にも貢献されております。また、先生のご専門性を請われ、学外でも講師として活躍されています。1975年から10年間、川崎市立病院附属高等看護学院、東京通信病院附属高等看護学院でも1976年から1998年まで、そして、横浜高等教育専門学校では1990年から現在に至るまで教鞭を取っております。

亀谷先生は42年間法政大学に奉職され、研究・教育等にご尽力くださいました。この間法政大学および経営学部の発展に貢献いただきました。この3月、法政大学を離れることになりましたが、今後とも益々のご活躍ご発展を祈念し、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2015年10月

法政大学経営学部長

竹内 淑恵